

## 病害虫情報 No.8

県北地域ではいもち病の発生に注意し、

発病状況に応じた防除を行ってください！

作物名：水稻

病害虫名：いもち病（穂いもち）

## [現在の状況]

1. 7月下旬現在、葉いもちの発生地点率及び発病度は平年よりやや高い（表1）。特に県北地域では発生程度の高い水田がある。
2. 気象予報によると、向こう一週間は曇天が多く、本病が発生しやすい条件である。
3. 葉いもちの発生が多い水田では、穂いもちの発生に注意が必要である。

表1 調査地点における葉いもちの発生状況（7月下旬調査）

地域 (調査地点数)	発生地点率 (%)			発病度			発生程度別地点数				
	本年	平年	順位	本年	平年	順位	甚	多	中	少	無
県北 (29)	76	84	7/11	15.6	13.2	4/11	0	3	8	11	7
鹿行 (6)	67	32	2/11	2.8	3.4	7/11	0	0	0	4	2
県南 (19)	37	27	3/11	0.7	2.1	9/11	0	0	0	7	12
県西 (12)	25	13	3/11	1.2	1.1	2/11	0	0	0	3	9
全県 (66)	55	49	2/8	7.5	6.3	2/8	0	3	8	25	30

注) 少発生：発病度1～20，中発生：21～40，多発生：41～70，甚発生：71以上

## [防除対策]

1. イネの穂がいもち病菌に侵入されやすいのは、出穂14日後位までである。この期間に降雨が続く場合は発生に注意が必要である。
2. 窒素過多はいもち病の発生を助長するため、穂肥は適正に実施する。
3. 穂いもちを対象とした薬剤防除の適期は、穂ばらみ末期～穂揃期である。表2を参考に、発生状況に応じた防除を行う。上位葉に病斑が進展している水田では防除を徹底する。
4. 防除薬剤は表3を参考にする。粒剤を使用した場合、止水期間後は適正な水管理を行う。
5. 水稻の生育は平年より進んでいるため、防除時期が遅れないように注意する。

表2 穂いもち防除の例

葉いもちの発生状況	出穂後の天気予想	対応（丸数字は防除回数）	穂いもち被害危険度のめやす
無～少 発生は認められないか、 あっても下葉に少しある 程度	晴天	防除の必要なし	ごく低い
	降雨	降雨が続きそうな場合は、 ① 穂ばらみ末期～穂揃期に乳，液剤を散布， または出穂一週間前までに粒剤施用	低い
中 下葉に多く病斑がある が，上位葉にはほとんど きていない	晴天	① 穂ばらみ末期～穂揃期に乳，液剤を散布， または出穂一週間前までに粒剤施用	中
	降雨	① 穂ばらみ末期～穂揃期に乳，液剤を散布， または出穂一週間前までに粒剤施用	やや高い ～高い
多 下葉に多くの病斑があ り，上位葉にも進展して いる	晴天	① 穂ばらみ末期～穂揃期に乳，液剤を散布， または出穂一週間前までに粒剤施用	高い
	降雨	① 穂ばらみ末期に乳，液剤を散布， または出穂一週間前までに粒剤施用 ② 穂揃期に乳，液剤を散布	非常に高い (2回防除)

表3 イネいもち病に登録のある主な薬剤（平成19年7月18日現在）

薬剤名	希釈倍数または 使用量	収穫前日数 または使用時期	本剤の 使用回数	有効成分－有効成分の 総使用回数
葉いもち及び穂いもち				
アミスターエイト	1,000～1,500 倍	収穫 14 日前まで	3	アゾキシトピレン-4（育苗箱1， 本田3）
フジワン乳剤	1,000 倍	収穫 14 日前まで	3	イゾプロチオラン-3
ヒノザン乳剤 30	1,000 倍	収穫 21 日前まで	3	EDDP-3
ラブサイドフロアブル	1,000～1,500 倍	収穫 7 日前まで	6（穂ばら み以降4）	フアライト®-6（穂ばらみ以降4）
ブラシンフロアブル	1,000 倍	収穫 21 日前まで	2	フェリムゾン-2， フアライト®-6（穂ばらみ以降4）
穂いもち				
コラトップ粒剤5	3～4kg/10a	出穂 30～5 日前	2	ビロキロン-3（育苗箱1，本田2）
フジワン粒剤	3～5kg/10a	出穂 30～10 日前	3	イゾプロチオラン-3
キタジンP粒剤	3～5kg/10a	出穂 20～7 日前	2	IBP-3（粒剤は2）
アチーブ粒剤7	3～4kg/10a	出穂 30～5 日前 (収穫 21 日前まで)	3	フェノキニル-3
嵐粒剤	2kg/10a	出穂 25～5 日前 (収穫 21 日前まで)	1	オキサトピレン-2（移植前1，本 田1）
コラトップジャンボ	小包装 10～13 個 (500～650g)/10a	出穂 30 日前 ～5 日前	2	ビロキロン-3（育苗箱1，本田2）

農薬を使用する際は，農薬ラベルに記載の使用方法・注意事項を確認のうえ使用してください。

また，薬剤散布の際は，周辺作物への飛散（ドリフト）に十分注意してください。

水田において農薬を使用するときは，農薬のラベルに記載されている止水に関する注意事項を確認するとともに，止水期間は一週間程度とすること。